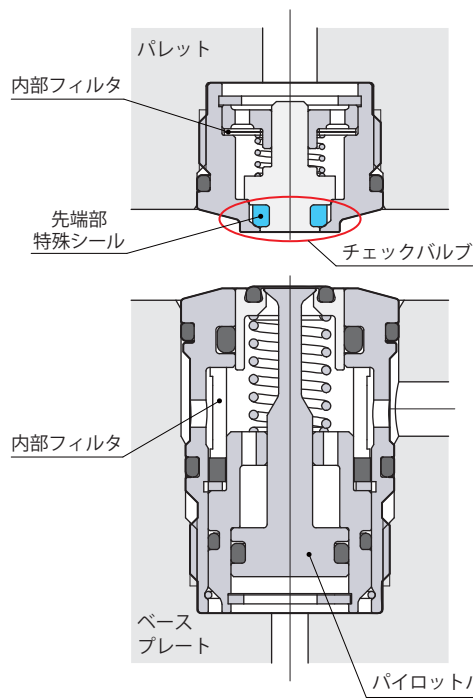
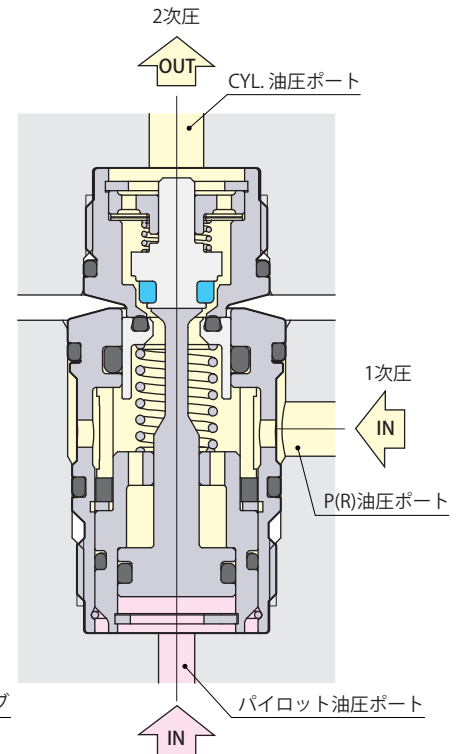


パイロットチェック機構により接続時反力を小さくしたカプラ

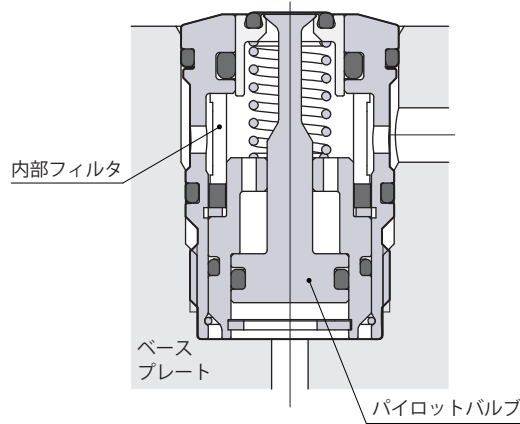
7 MPa パイロットカプラ プラグ

model **WVP-2EPL**

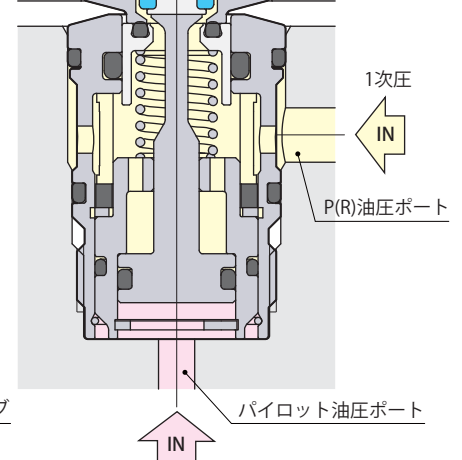
分離状態

接続状態
(圧力供給)

7 MPa パイロットカプラ ソケット

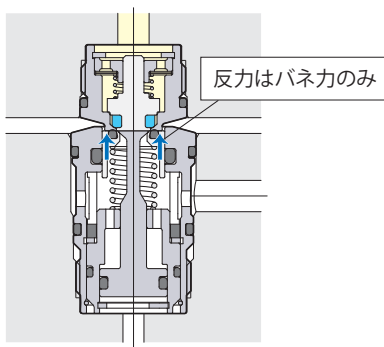
model **WVP-2ESL**

分離状態

接続状態
(圧力供給)

仕 様

- パイロットチェック機構により、油圧による反力が発生しないため、カプラ接続時の反力を小さくすることができます。



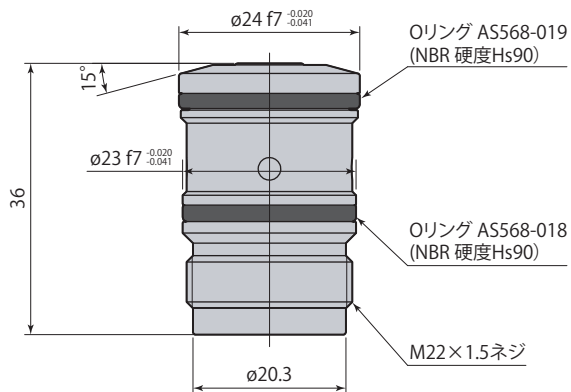
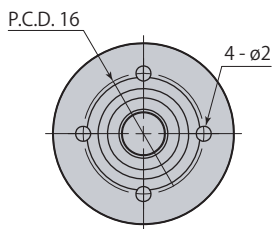
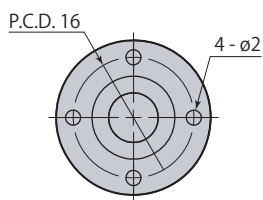
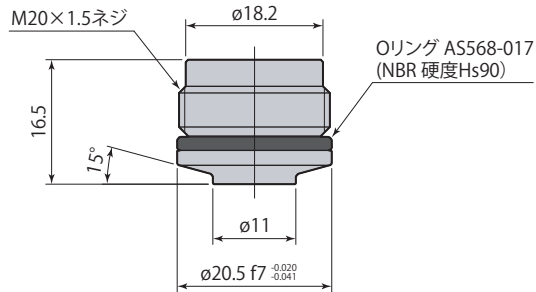
- 先端部特殊シールにより、カプラ分離後も回路内の圧力を長時間保持します。
- フィルタをカプラ内部に設け、切削屑やゴミなどの油圧回路内への侵入を防ぎます。

油圧力範囲	1 ~ 7 MPa	回路記号 パイロット 一般鉱物系作動油 7MPa 2次側圧力保持可
保証耐圧力	10.5 MPa	
オリフィス面積	10.2 mm ²	
使用流体	一般鉱物系作動油(ISO-VG32相当)	
許容偏心量	±0.5 mm	
許容傾き量	0.3°以下	
反 力	接続時バネ力	28 N
	加圧時反力	$113 \times P^{*1} + 36 \text{ N}$
パイロット圧力	$0.4 \times P^{*2} + 0.1 \text{ MPa}$ 以上	
使用周囲温度	0 ~ 70 °C	
質 量	WVP-2EPL : 29 g	WVP-2ESL : 82 g

※1:P = 1次側油圧力 (MPa) ※2:P = 2次側油圧力 (MPa)

WVP-2EPL

油圧7MPa プラグ
推奨締付トルク：15 N・m



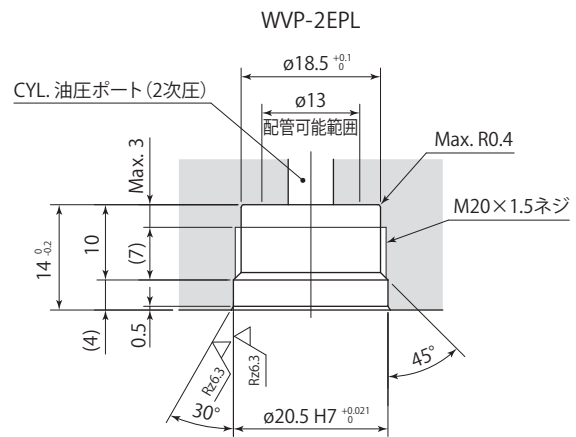
WVP-2ESL

油圧7MPa ソケット
推奨締付トルク：15 N・m

- 分離状態、分離・接続動作時はPポート（1次圧）・パイロットポートを加圧しないでください。
- ソケット側にはチェック弁を設けていません。分離状態での加圧は行なわないでください。
- 設置時に油圧回路内のエア抜きは十分に行なってください。
- 1次圧供給時は加圧時反力が発生します。カプラ接続後、加圧時反力以上となるロック機構を別途、用意してください。

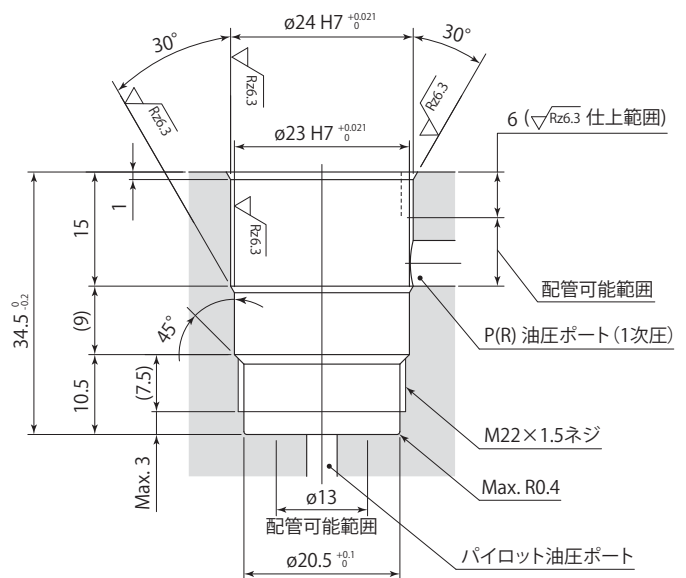
外形寸法図

取付穴加工図

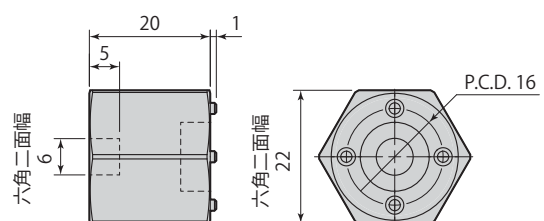


取付穴加工図

WVP-2ESL

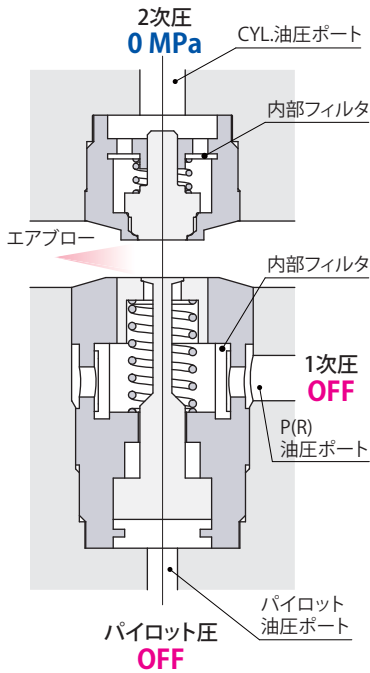


カプラ組付ジグ (オプション) model WVP-2EJ



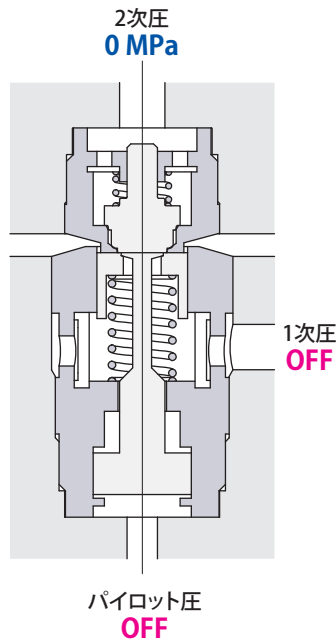
圧力保持動作

①分離状態



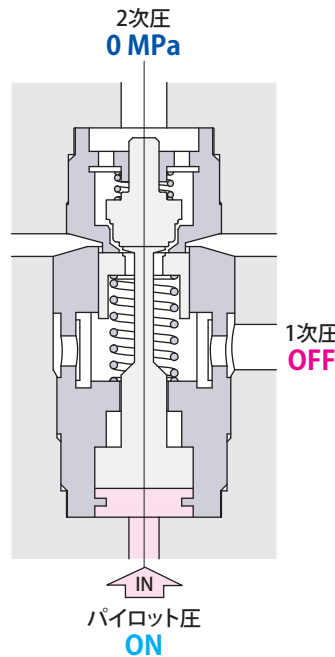
分離状態では、パイロット圧・1次圧を加圧しないでください。

②接続動作



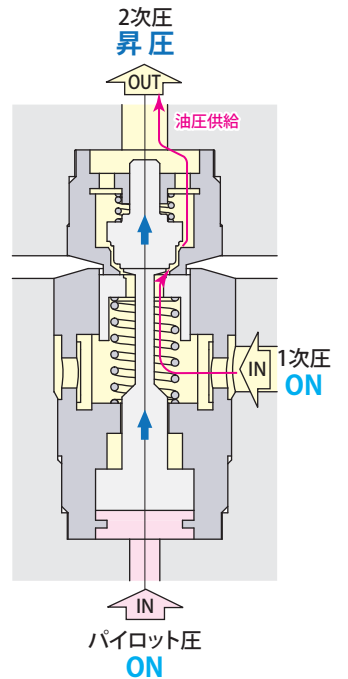
カプラを接続します。

③昇圧-1



パイロット圧を加圧し、チェックバルブを開きます。

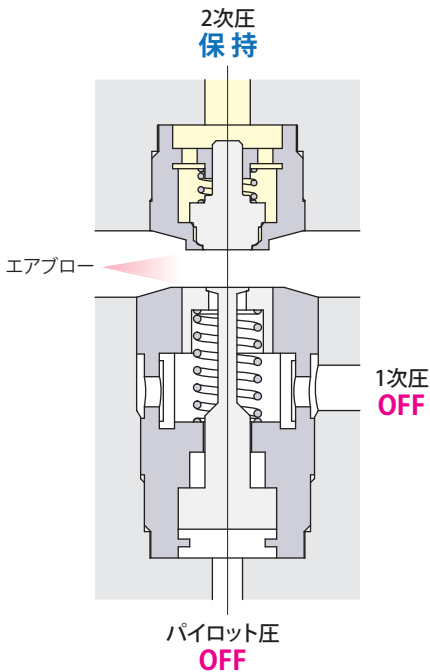
④昇圧-2



パイロット圧を加圧後、1次圧を加圧します。

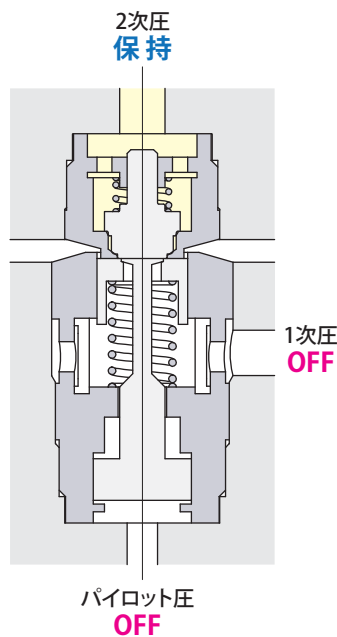
リリース動作

①分離状態



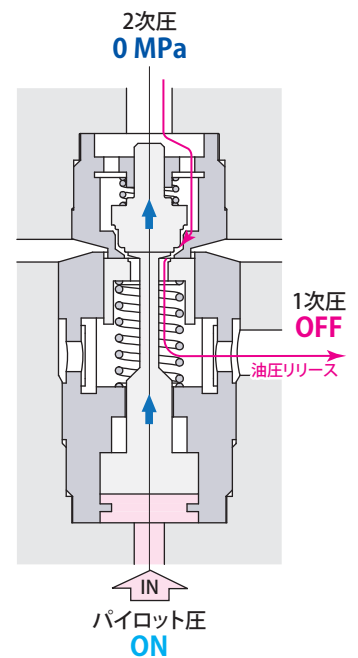
分離状態では、パイロット圧・1次圧を加圧しないでください。

②接続動作



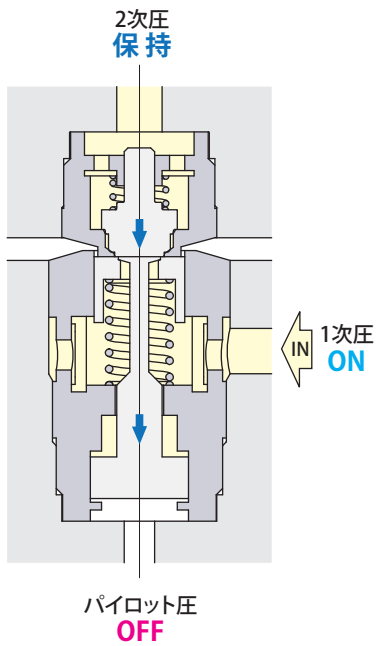
カプラを接続します。

③リリース動作-1



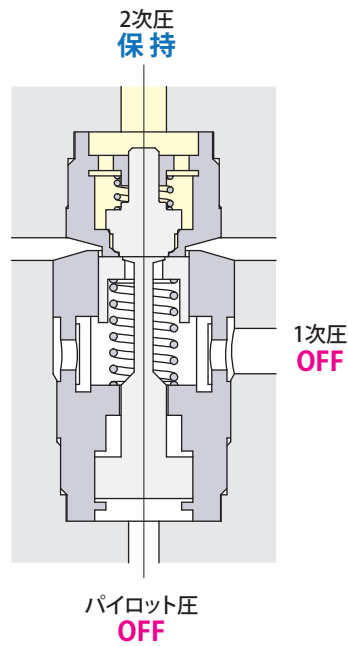
接続完了後、パイロット圧を加圧し、保持油圧をリリースします。

⑤ 保持動作-1



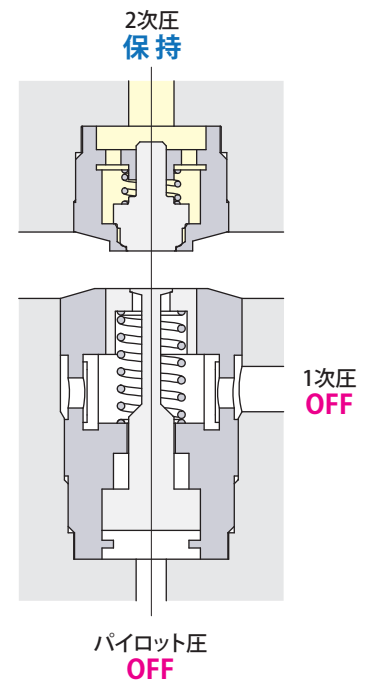
2次圧昇圧完了後、パイロット圧の加圧を止めます。

⑥ 保持動作-2



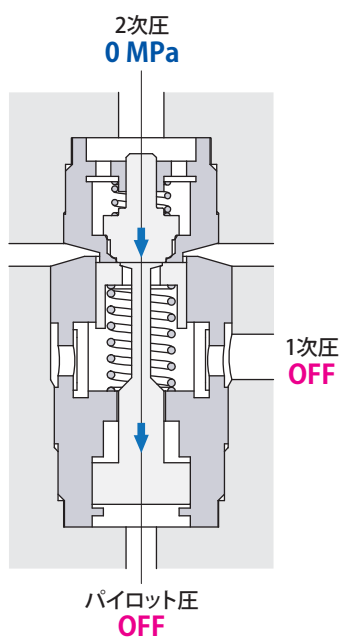
パイロット圧の加圧停止後、1次圧の加圧を止めます。

⑦ 分離動作



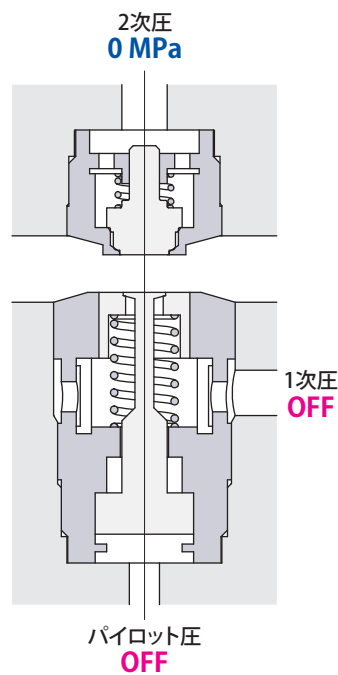
カプラを分離しても圧力保持します。

④ リリース動作-2



リリース完了後、パイロット圧の加圧を止めます。

⑤ 分離動作



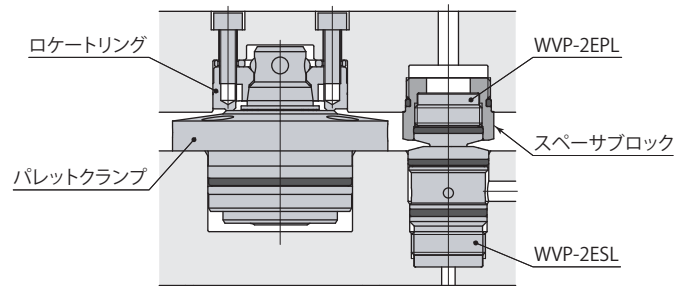
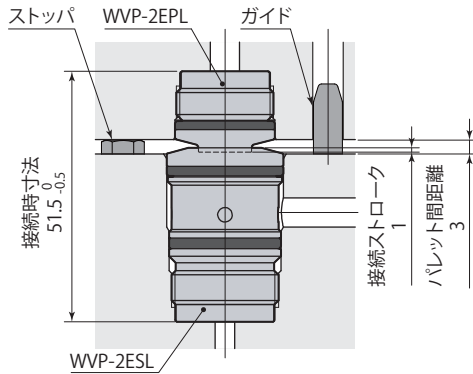
カプラを分離します。

使用上の注意

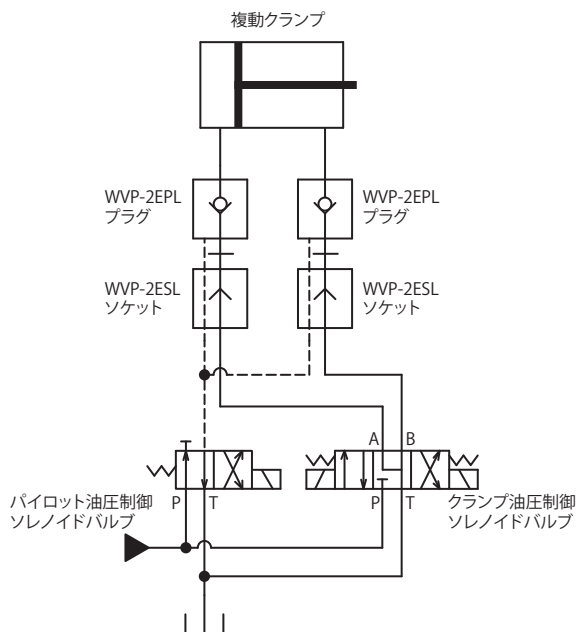
- ストップはカプラの接続時寸法が $51.5_{-0.5}^0$ になるように取付けてください。(下図参照)

ガイドは許容偏心量・許容傾き量が仕様範囲内になるように取付けてください。(許容偏心量・許容傾き量は→678ページを参照してください。)

- パレットクランプとセットで使用する場合は、スペーサブロック(お客様製作)を別途、用意してください。

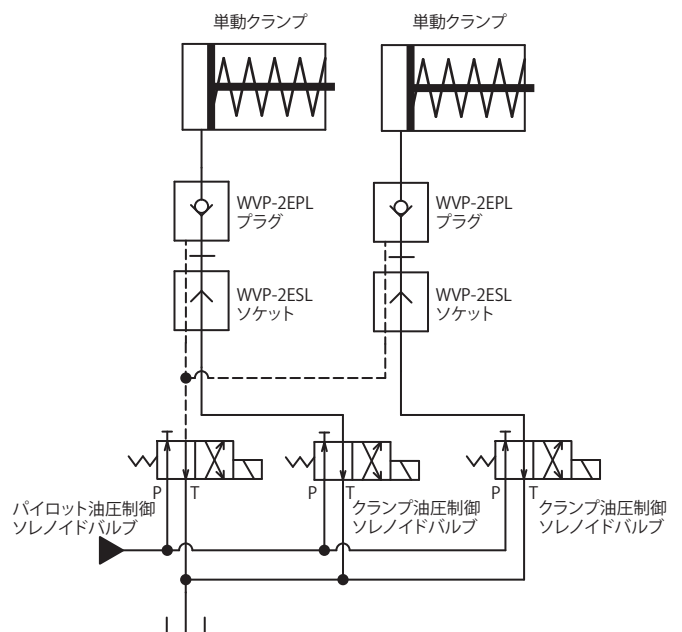


複動クランプ油圧回路図



- 背圧が生じないように、クランプ油圧制御ソレノイドバルブは、センタ位置にてAポート・BポートともにTポート接続となる3位置のソレノイドバルブを使用してください。パイロット油圧制御ソレノイドバルブは、油圧供給時以外はTポート接続となるソレノイドバルブを使用してください。

単動クランプ油圧回路図



- 背圧が生じないように、油圧供給時以外はTポート接続となるソレノイドバルブを使用してください。